

あらすじ:オペラ「アイダ」

『アイダ(Aida)』は、ジュゼッペ・ヴェルディ(Giuseppe Verdi/1813年-1901年)によって作曲されたオペラです。劇中に登場する合唱「凱進行進曲」はサッカーの試合でも使われており、音楽ファン以外でもとても馴染みのある音楽です。

ヴェルディはオペラ史において最も重要、かつ人気のある作曲家の一人で、『ナブッコ』『リゴレット』『椿姫』など多くの傑作を遺しました。

【第1幕】

時は古代エジプト、舞台はその首都メンフィス。エジプトの敵国エチオピアの王女アイダは、エジプトの捕虜となっていました。身分を偽ってエジプトの王女アムネリスの奴隷として身の回りの世話をしています。そしてアイダは、エジプトの将軍ラダメスと秘かにお互い愛し合う仲となっていました。そんな中、将軍ラダメスは、エチオピア討伐の指揮官を命じられます。アイダは恋人への愛と祖国への想いに葛藤を生じて思い悩むのでした。

【第2幕】

一方、エジプトの王女アムネリスもラダメスのことを愛していました。彼女は、戦場に向かったラダメスを心配する侍女のアイダを見て、恋敵であることを確信しました。

戦いはエジプトの勝利に終わり、エジプト国王は凱旋したラダメスに、娘のアムネリスを与え、将来自分の後を継ぐように言います。アムネリスは喜んだものの、ラダメスは困惑し、そしてアイダも悲しみに暮れるのでした。

【第3幕】

戦いでエジプトの捕虜となった者の中に、エチオピア国王のアモナズロが身分を隠して加わっていました。アモナズロは娘のアイダに、ラダメスからエジプト軍の機密情報を聞き出すように強要しました。

アイダはラダメスと会ったとき、国を捨てて二人で一緒に暮らそうと誘います。ラダメスも思いを同じくし、エジプト軍が配備されていない「ナパタの谷」を行けば誰にも会わずに逃げられるとアイダに伝えます。そのとき、この話をこっそり聞いていたアモナズロが、自分がエチオピア王であることを明かし、その「ナパタの谷」からエジプトを攻めようと言い出します。ラダメスは焦ります。そこへアムネリスが現れたのですが、ラダメスはアイダとその父を逃がしてやりました。

【第4幕】

軍事機密を漏らしたラダメスは死罪となります。彼の命だけは救いたい王女アムネリスは、アイダへの想いさえ捨てれば命を助けると彼に言います。しかし、ラダメスはそれを断り、死を覚悟しました。

ラダメスは地下牢に生き埋めとされます。その暗闇の牢に、なんとアイダの姿がありました。彼女は牢が閉じられる前に忍び込んでいたのです。二人は抱き合いながら、静かに死を待ったのでした。